



# 奈義 暮らす で

どこかなつかしくて、  
なぜかほっとする。



あなたも  
奈義暮らしを  
楽しんでみては？



奈義町の情報は  
こちらをチェック！

 Facebook



 Instagram



 YouTube



奈義町HP



岡山県の北東部に位置する、  
 雄大な那岐山に見守られた小さなまち・奈義町は、  
 子どもと大人が世代を超えて  
 出会い、手を取り合い、育ち合う「子育て応援宣言のまち」、  
 小さいまちだからこそできる、きめ細やかなまちづくりが  
 「合計特殊出生率2.95」という、日本トップクラスを誇る  
 特別な数値を生み出しています。  
 その数値の背景にあるのは、  
 奈義町が目指し続けている  
 「誰もが暮らしやすく持続できるまちづくり」。  
 それは、子どもが楽しく安全に過ごせる場所であったり、  
 大人が安心して支援を受けられる施策であったり、  
 地域ぐるみで町民の暮らしを支えたいという思いから。  
 実際のまちの暮らしをのぞきながら、  
 「合計特殊出生率2.95」を誇る奈義町の  
 町民に寄り添ったまちづくりについてご紹介します。

※15～49歳までの女性の年齢別出生率を  
 合計した数値。ひとりの女性が、仮にその年  
 次の年齢別出生率で一生の間に生むとした  
 ときの子どもの数に相当する



総人口 5,852人  
 世帯数 2,516世帯  
 面積 69.52km<sup>2</sup>

奈義町へのアクセス

鉄道・バス：JR岡山駅よりJR津山線・津山駅へ(約1時間30分)。中鉄北部バス(「行方」または「馬桑」行)に乗りし、「ナギテラス(奈義町役場)」で下車(約40分)  
 クルマ：岡山市街から国道53号で鳥取方面へ(約2時間)



Index

- 03 「奈義」ってこんなまち
- 05 子育てがしやすいまち
- 09 「生み出す力」を育む まち独自の教育
- 11 誰もがいきいきと暮らせるまち
- 13 奈義暮らしで見つけた まちの魅力





## 雄大な那岐山に見守られて暮らす

国定公園にも指定されている那岐山に抱かれたまちです。人々は、雄大な山が季節ごとに装いを変えていく様子を間近で感じることができます。山の中腹には、地元に伝わる巨人伝説「三穂太郎(さんぶたろう)」にまつわる滝や、天然記念物の大イチョウなどがあります。

奈義って  
こんなまち  
4

豊かな自然に  
恵まれたまち

奈義って  
こんなまち  
1

子育てが  
しやすいまち

## 子どもの成長を地域ぐるみで支える

2012年、子どもたちが夢と希望を持てるまちづくりを目指して「奈義町子育て応援宣言」を行いました。出産前から大学卒業までの切れ目ない子育て支援や、地域住民が助け合いながら子育てのサポートができる施設の整備など、世代を超えて地域ぐるみで子どもの成長を支えるまちづくりを進め、2014年には合計特殊出生率2.81、2019年には2.95を達成しました。



『奈義町総合運動公園』にある屋外遊具「とんがりワールド」

奈義町在住  
Kさん一家

# 「奈義」ってこんなまち

中国山地の秀峰・那岐山のふもとにある、豊かな自然に恵まれたまち、奈義町。那岐山の南斜面に位置するため、中山間地域でも空が広く感じられる開けた地形になっており、清涼な風や豊かな緑、降り注ぐような星空など、四季折々の美しい自然や景観が楽しめます。国道53号が横断する町内には、津山や美作へ向かう定期バスのほか乗り合いタクシーも運行し、コンパクトなまちながら町内外のアクセスも良好です。そんな山ろくの小さなまちでいきいきと暮らす人々にフォーカスしながら、知られざるまちの魅力に迫ります。

奈義って  
こんなまち  
2

子どもが  
のびのびと  
学べるまち

国際交流員・ジェイクが、  
「放課後児童クラブ」で  
児童とふれあう様子



## 学び合いを大切にした教育方針

小中が連携したカリキュラムによるコミュニケーション能力を高める授業をはじめ、世代を超えた交流や自然の中での体験学習、プログラミング教育などを通じて、学ぶ楽しさを感じながら主体性や協働性、自己表現力を育てるよう、地域と連携した教育を展開しています。



プログラミングに挑戦する小学生

奈義って  
こんなまち  
3

お年寄りが  
いきいきと  
暮らせるまち

## いつまでも自分らしく生きるための環境づくり

「生涯を通して安心して暮らせるまち」を目指し、誰もが家庭や地域の中で自分らしく生きられるような支援をしています。全国でいち早く「家庭医」を導入したほか、高齢者の居場所づくりのための「ちょいワルじいさんプロジェクト」など、一人ひとりの人生に寄り添う取り組みを行っています。

「ちょいワル」メンバーの自宅で開催されたライブの様子



奈義って  
こんなまち  
5

新しい働き方が  
できるまち

## 先進的な働き方を推進するまち



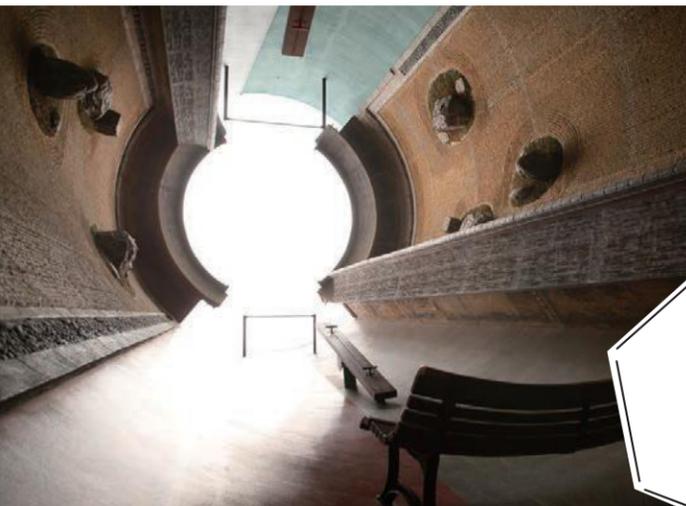
『奈義しごとえん』で働く人々

特産のアスパラガスを栽培する若手農業者



暮らしと密接に関わる「しごと」。若年から高齢者まで誰もがいきいきと働ける環境づくりを目指し、就職・就農支援はもちろん、まち独自の「新しい仕事のカたち」を創出しています。子育てママやシニア世代が好きな時間に気軽にできるワークシェアリングをはじめ、その人に合った新しい働き方を支援しています。

『奈義町現代美術館』の展示室「太陽」



## 作品と建物が一体となった「現代アート」

奈義町には、世界的な建築家・磯崎新氏が建築した『奈義町現代美術館』があります。那岐山を借景に、五感でアートを感じられる「体感型美術館」の先駆けとして国際的にも注目され、全国からアートファンが訪れています。

奈義って  
こんなまち  
6

アートが  
息づくまち

# 『なぎチャイルドホーム』が子育ての心の支えに

なぎチャイルドホームってこんなところ



子育て世代が気軽に通える施設として開放されています。常駐する「子育てアドバイザー」に育児に関する相談にのってもらったり、子どもの社会的経験の場となるような活動を行ったりしています。そのほか、子どもの一時的な預かりや、親子向けのイベントなども実施しています。



「子育ての相談がしたい」「地域の方と交流したい」「子ども同士で遊ばせたい」など、ふらっと立ち寄れる心地よい場所です！

子育てアドバイザーの貝原さん(左から2番目)と、スタッフの方々

「なぎチャイルドホーム」には、いつも多くの親子が集っている

なぎチャイルドホームは、将来を担う子どもたちを地域の宝とし、官民一体となって子育てしやすい環境づくりに取り組んでいます。そんな奈義町の「地域ぐるみの子育て」を支える拠点として、『なぎチャイルドホーム』という施設があります。誰でもいつでも気軽に通えるこの施設では、親同

士が協力しあって子どもを預かったり、地域の方との交流会などを定期的に開催したりすること、子育て世代の「まことのつながり」を生み出しています。「地域の方に見守られている」という心強さが、孤立感を抱えがちな子育て世代を精神的にサポートしています。

『なぎチャイルドホーム』を基軸にした、地域ぐるみの子育てサポート。

2012年に「子育て応援宣言」を行い、2019年の合計特殊出生率が全国トップクラスである2.95の奈義町。全国的に少子化が進む中、奈義町がたくさんの子どもに恵まれ「子育てしやすいまち」と称されるのには、理由があります。それは、さまざまな角度から子育てを支える仕組みが整っているからです。そんな奈義町の優しい子育て支援についてご紹介します。

# 子育てがしやすいまち



遊具がリニューアルした総合運動公園内で遊ぶ子どもたち

### 高校生まで医療費無料!

高校生までの子どもの医療費のうち、保険診療に係る自己負担分をまちが全額負担します。

小学生から3割負担のまちも多いから、ありがたいですね!



### 保育料の負担が少ない

第1子は国の基準の約55%の金額。第2子は半額、第3子以降は無料。第1子が高校生の時まで適用されます。

第1子のカウントが未就学児までのまちが多い中、**高校生までカウント**なのはきょうだいが多い家庭には助かります!



### 子育てしやすい理由 その3

## 子どもの成長に寄り添った、切れ目ない経済支援



子どもを産み、育てやすい環境をつくる上で欠かせない「経済的支援」。奈義町では、「若い子育て世代の負担を軽減できるように」と、子どもの成長に寄り添った切れ目のない子育て支援制度が充実しています。乳幼児・児童・生徒の医療費無料化や法定外ワクチン接種補助、出産支援金の交付、在宅育児支援手当など、子どものライフステージや家庭の事情に応じた、まち独自の厚いバックアップは多岐にわたります。子どもが生まれてから成長していく中で、切れ目なく経済支援を受けられる体制が整っていることは、奈義町で子育てをする若い世代の「安心感」につながっています。

### 予防接種助成

定期接種ではない、おたふくかぜの2回または3回接種を全額助成。インフルエンザは13歳未満は2回接種で1回目のみ個人負担1700円、2回目は無料。13歳以上は1回接種で個人負担1700円となっています。

※2020年度、インフルエンザの予防接種は0～18歳と65歳以上は無料。19～64歳までが1000円負担のみ

しっかり予防できて安心だね!



### 在宅育児をする保護者に支援金

満7カ月～4歳までの子どもを在宅で育児する保護者に、子どもひとり当たり月1万5000円が支給されます。

### 高校生への就学支援

高校生ひとり当たり年額13万5000円が在学中3年間支給されます。

私は津山市内に通学しているので定期券代に充てているよ



### ちょっと子どもを預けたい時の一時保育「すまいる」

「病院に行く間、下の子を預かってほしい」「買い物に行く間だけ子どもを見てほしい」など、一時的に子どもを預かってほしい時に、子育て援助会員に依頼できる制度です。『なぎチャイルドホーム』以外に、援助会員の自宅で預かってもらうこともできます。

顔見知りの方に預けられるので安心です!



利用者/黒藪 愛実さんと澄空くん



『なぎチャイルドホーム』で子どもを預かる会員

『なぎチャイルドホーム』では各種イベントや座談会も!



助産師や心理士などの講師を招いた座談会や、赤ちゃんを連れて参加できるリトミックなどのイベントを定期的で開催しています。

### 週4で通え、親同士で協力する保育活動「自主保育たけの子」

幼児期の子どもたちに「家庭的な雰囲気の中で育てほしい」という願いから始まった自主的な保育活動です。保護者と保育士が、毎週火～金曜に当番制で子どもたちの面倒をみながら、遊びや活動を行います。子どもだけでなく、親同士の交流の場にもなっています。

知人のすすめで『なぎチャイルドホーム』に通い始めて、今は「たけの子」会員になってほぼ毎日通っています。「たけの子」に子どもを預けている時間に、家事を済ませたり、プライベートな時間も持てて助かっています。



利用者/黒田 美寿々さんと結香ちゃん



親子で協力して作った昼食を楽しむ様子



天気がよい日に、町内を散歩して自然に触れる子どもたち

### 子育てしやすい理由 その2

## 『奈義しごとえん』で子育てしながら短時間ワーク

### 子育て世代の「ちょっと働きたい」をかなえる施設。

子育て世代や高齢者の「ちょっとの時間だけ働きたい」という声から生まれた就労支援施設です。広報紙の封入やパソコン作業など、事業所や企業、町民から依頼された仕事を個人の能力や都合に合わせて受けることができます。子連れで仕事ができるほか、外で仕事をする際は親同士が子どもを預かりあう「こもりん」というサービスを利用することもできます。



仕事の内容はさまざま。仕事の中には、子どもを見ながらできる作業もある



町民ライターの仕事で取材中の子育て中ママ。外で仕事をする際は、「こもりん」を利用して施設内で子どもを預かってもらっている



その頃娘さんは...



## まちが誇る伝統文化 「横仙歌舞伎」から学ぶ

岡山県の指定重要無形民俗文化財に指定される「横仙歌舞伎」。その伝統文化の伝承のため、子どもたちは1996年に開講した「横仙こども歌舞伎教室」や、小学校の総合学習の授業で歌舞伎に取り組んでいます。また、長年「横仙歌舞伎」の伝承に取り組んでいる「横仙歌舞伎保存会」の方々と、世代を超えた活動を行い、子どもたちは、けいこや公演を通じて個性や表現力、協調性を育てていきます。



子どもたちが活躍する  
「よこぜん歌舞伎チャンネル」

役者だけでなく黒子や舞台音響、照明など、裏方でも子どもたちが活躍



奈義町役場 歌舞伎専門職員/  
寺坂さん

子どもから高齢者の方まで、多世代の地域の方々と一緒に「横仙歌舞伎」の保存伝承に取り組んでいます。

## 地域ぐるみの 教育サポート体制

奈義町には、地域住民による「教育支援ボランティア」が約100人います。裁縫や楽器の指導、登下校の見守りなど、さまざまな形で教育をサポートしてくれます。



子どもたちの  
成長を見守り、  
お手伝いします！

## 地域と連携した学びの場づくり

「地域とともにある学校」を目指し、地域住民を講師に迎えた教育活動に力を入れています。近くの山や川にいる生物の観察やドライアイスを使った実験、楽器体験、調理実習など、活動内容はさまざま。子どもたちはあらゆる世代の人々と交流しながら、「学ぶことの楽しさ」を実感することができます。



測量で使う大きなドローンで、空から見た奈義町を観察する体験も



農学博士の「よっちゃん先生」と戸田栄徳さんと、目に見えない「音」を見る実験をする様子

## 地域食材を通じた「食育」で 郷土愛を育む

学校や生産者、行政などが協働して学校給食への地産地消の推進を行っています。稲刈りをはじめとする体験学習や、生産者との交流給食といった食育にも取り組んでおり、学期に2回、奈義町の特産品である「なぎビーフ」や「おかやま黒豚」を使った給食が出ます。子どもたちは、実際に農家から話を聞き、体験することで「食」への関心を深めます。



特産品「なぎビーフ」を取り入れた学校給食



「なぎビーフ」の生産者を招いた中学校の給食の様子



食育の一環として、毎年田植え体験をする小学生

## 「演劇的手法」を用いた コミュニケーション教育

劇作家で演出家の平田オリザ氏を講師として招いたワークショップを、町内の小・中学校で行っています。これは、社会を生きる中で必要となる「コミュニケーション能力」の育成を目的としたもので、子どもたちは演劇の中でさまざまな役割を担い、異なる立場や考え方を理解した上で、協働していく力を身に付けます。



グループで話し合いながら劇を作り、それぞれが役を演じて発表会を行う



主体性や多様性、協働性を子どもたちに身に付けてもらうことが狙いです。この力は、これからの社会を生き抜くためには欠かせない力です。

劇作家・演出家 平田オリザさん

# 「生み出す力」を育む まち独自の教育

奈義町では、「生み出す力をもった『人』を育てる」をテーマに、将来のまちの担い手となる子どもたちに、新しいものを「生み出す力」を育むための教育を進めています。「演劇的手法」を用いたコミュニケーション教育や、奈義町が誇る伝統文化「横仙歌舞伎」を授業に取り入れることで、主体性や協調性、判断力を育むと同時に、お互いを尊重しながら自己表現し、合意形成する力を伸ばす。

奈義町では、「生み出す力」を育むことが、相手との意見を聞き、自らの意見をきき、人と相手に伝える「コミュニケーション能力」の育成にもつながります。また、「地域全体で『人』を育てていくこと」を大切に、地域の「人」や「食」とかかわることで、子どもたちの「奈義を愛する心」も育んでいきます。そうした「奈義町ならではの」豊かな学びを通して、子どもたちははのびのびと成長していきます。

パン屋さんの営業を通して、  
奈義町の魅力を伝えたい。

—小さなパン屋 Atelier Nico+ / 田中麻衣さん—



「景色がきれいな『那岐山麓山の駅』で食べるのがおすすめて」と田中さん

奈義町の自然に引かれて移住した田中さんは、2017年に『小さなパン屋 Atelier Nico+』を開業しました。2児の母を務めながら、行列ができるほどの店に成長させることができたのは、まちの子育て支援や地域の方々の温かさに支えられたから。「大好きな奈義町に、パンをきっかけに足を運んでくれる人が増えたら」と笑顔で語ります。

奈義町初のキャベツ栽培に貢献。  
まちと連携して地域農業の振興を。

—キャベツ農家 / 山田憲史さん—



キャベツのほかに、ブルーベリーやアスパラガスも栽培している

オーストラリアで騎手として活躍していた山田さん。騎手を引退し、2017年に奈義町へ移住したのを機に農業の道へ。人と違うことに挑戦したいと、気候的に難しいとされていたキャベツ栽培に取り組み、地域農業の発展に貢献しています。現在は、若い世代を農業に呼び込む対策をはじめ、まちと連携した農業の環境づくりに尽力しています。



# 誰もが いきいきと 暮らせるまち

## いきいきと暮らせる理由 2

### シニア世代の暮らしを支える コミュニティと活躍の場づくり

男性は、女性に比べて老後は家に閉じこもりがちになり、寝たきりや認知症が進む傾向があるといわれています。そんな男性高齢者に、生活の中で目的ややりがいを見出しってもらうべく発足したのが「ちょいワルじいさんプロジェクト」です。最高齢88歳のコミュニティで、旅行やイベントを企画して男性高齢者の居場所と健康づくりを進めています。また、町内の就労支援施設「奈義しごとえん」には、短時間労働やパソコンをはじめとするスキルアップ研修を目的に、シニア世代が積極的に訪れています。



イチヨウを巡るツアーに参加し、途中休憩する「ちょいワルじいさん」の皆さん。毎月、次のイベントを企画する「ちょいワルじいさん作戦会議」も開催



「ちょいワルじいさんプロジェクト」で企画した、昭和初期の奈義町を映す上映会で、目を輝かせて観賞する参加者



「奈義しごとえん」で、シニア男性がパソコンのスキルアップ研修に参加している様子

## いきいきと暮らせる理由 3

### 気軽に相談できる地域のかかりつけ医

奈義町は、性別や年齢、症状に関係なく、日常の中での相談事から病気の治療まで幅広く診てもらえる「家庭医」を全国でいち早く導入しました。介護者である家族もまた患者であるのとらえ、家族図を組みこんだ電子カルテを活用し、家族志向のケアを提供する全国的にも珍しい医療体制になっています。また、自宅や特別養護老人ホームで生涯を終える「地域看取り率」が、全国平均の2倍にも及ぶ約45%と高く、まさに「地域が病院」となっています。



『奈義ファミリークリニック』所長  
まつしたあきら  
松下 明先生

町民の皆さんの、心と体にかかわる健康問題に寄り添う「家族ぐるみのかかりつけ医」として、日々診療を行っています。



## いきいきと暮らせる理由 1

### まちの環境やサポートが 自分らしい働き方の発見に

豊かな自然に囲まれた奈義町は、農業や畜産業が盛んな地域です。また、地域工業振興の拠点である「東山工業団地」も整備されており、その年間工業出荷額は約250億円にも及びます。また、新しいことに挑戦する若い世代のサポートも積極的に行われ、農家や起業家など移住者が活躍しています。



現在13社の企業が操業し、700人以上を雇用する「東山工業団地」

#### 就職・就農支援も充実！

- ・**農業次世代人材投資資金**  
地域の定める「人・農地プラン」に位置付けられている、原則45歳未満の独立・自営就農者に対して年間最大150万円を給付
- ・**就業奨励金**  
町内で新たに就農した39歳以下の方に対してひとり当たり10万円を給付(40～59歳は5万円)
- ・**奈義町起業家支援事業交付金**  
施設の新設や備品購入、広告宣伝および法人登記に要する経費総額の1/2を交付(個人企業または個人から法人化の場合は上限50万円、法人企業は上限100万円)

奈義町は、年齢や性別などに関係なく、すべての人がその人なりの居場所を持ち、働きがいや生きがいをもって互いに助けあうことのできる「生涯活躍」のまちの実現を目指しています。例えば、人生において切っても切り離せない「仕事」。奈義町では、各種就職・就農支援体制を整備するほか、若い世代が新しいことに挑戦しやすい環境づくりに取り組んでいます。また、歳をとってもい

つまでも元気に活躍できるようにと、高齢者が主体となつて活動するコミュニティを形成し、全国でも先進的な「家庭医」制度も導入しました。これらの取り組みの根底にあるのは、「将来にわたつて誰もが暮らしやすいまち」を実現したいという願いです。そんな優しさと思いやりにあふれたまちを訪れてみると、そこには世代を超えて明るくいきいきと暮らす人々の姿がありました。

壮大な自然を  
全身で感じられます！



みむら たけし  
三村 剛史さん

2018年に徳島県から移住。森林組合の一員として、まちの自然を守る仕事に携わる

奈義町には豊かな自然があふれています。特に那岐山は、春夏秋冬はもちろん、時間帯や気候などでもまったく違う表情を見せてくれ、僕たち町民はふとした時に那岐山を仰ぐのが習慣になっています。今後はこの奈義町の自然の魅力を通じて、町内外の人をつながられるような役割を担っていきたくと考えています。



那岐山 国定公園にも指定されている中国山地の秀峰。頂上からは360度の大パノラマが楽しめ、晴れた日には大山や鳥取砂丘、日本海や瀬戸内海までも望むことができる



那岐山の中腹にある菩提寺の境内にそびえ立つ、推定樹齢900年を超える大イチョウ。国の天然記念物にも選定されている

おいしいものが  
たくさんあります！



いまだ  
磯田さん一家

町内で創業45年の写真館「スタジオフォトクリップ」を営む磯田さん夫妻と、娘と孫の親子3世代

「なぎビーフ」や、火山灰土で栽培された「黒ぼこ里芋」といった自慢の特産品をはじめ、豊かな自然と澄んだ空気の中で育ったおいしいものがたくさんあります。家族3世代でよく食事に行くイタリアン『La gita』は、地元の素材を使ったピザやサラダが驚くほど絶品！ 1~2カ月に一度は必ず一家で訪れるのですが、何度行っても飽きません。



磯田さん一家が通い、詰める地元の人気イタリアン『La gita』。店主の高山さんとすっきり顔なじみに



店内からは、那岐山のふもとに広がる自然の風景が眺められる



適度な霜降りと赤身のうま味が絶品の町産ブランド牛「なぎビーフ」。畜産農家が飼育方法にこだわり育てている



おでかけが大好きだという竹内さん親子。『那岐山麓山の駅』の近くの『山野草公園』も気に入るスポットのひとつ



「ピカリア」と呼ばれる巻き貝を中心とした、動植物の化石の発掘体験が楽しめる『なぎピカリアミュージアム』

身近にアートがあるのが  
自慢です！



はなふさ さやか  
花房 紗也香さん

2018年、結婚を機に神奈川県から移住。町内在住の画家として活躍する

全国的に有名な現代アートの美術館があるのが自慢です。そこは、作品の中に自分がいるような感覚が楽しめる不思議な空間で、海外からも注目されています。また、美術館や地域の保育園では、アーティストや作家によるワークショップや絵画教室をよく行って、町民の身近なところにアートがあふれています。

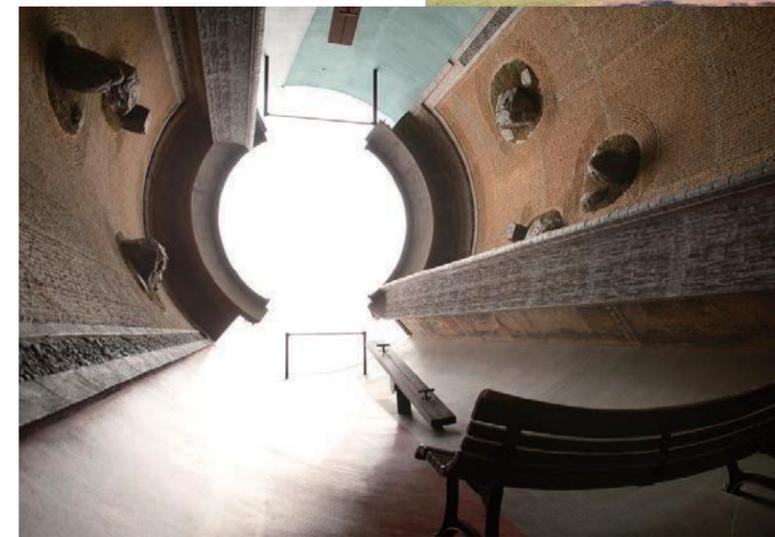
アート、自然...

# 奈義暮らしで 見つけたまちの魅力

これまで「誰もが暮らしやすく永続できるまち」を目指す奈義町の取り組みを、さまざまな角度からご紹介してきました。親子の成長に寄り添う子育て支援や、地域ぐるみで子どもたちの学びを支える教育体制、高齢者がいつまでも元気に活躍できる環境づくりなど。優しさにあふれたこのまちでは、町民同士が世代を超え互いに支えあい、明るくいきいきと暮らしていました。最終回となる今回は、そんな奈義町で暮らす人々に、改めてまちの魅力について尋ねてみました。自然やアートをはじめ、さまざまな魅力にあふれた奈義町へ、きっとあなたも訪れてみたくなることでしょう。

奈義町現代美術館

世界的な建築家・磯崎新氏のプロデュースで誕生した美術館。建築家と芸術家が共同制作し、作品と建物が一体化した空間に。太陽、月、大地と名付けられた3つの展示室で構成されている



花房さんが運営する絵画教室『Atelier Blanc』。生徒は子どもから大人まで幅広く、それぞれの個性やペースに合わせて自由な創作を楽しむ

子どもと楽しめる  
場所がいっぱい！



たけうち なおみ  
竹内 直美さんと  
あん りん  
杏ちゃん・琳ちゃん

2016年、結婚を機に津山市から移住。現在2歳と3歳の女の子のママ

子どもを連れてよく遊びに出かけるのですが、遊具がある公園や芝生、川遊びができるスポットなど、子どもと遊べる場所がたくさんあるので助かっています。まちに自然があふれているので、花を觀賞したり木登りしたりと、子どもたちのびのびと遊んでいます。化石の発掘体験ができるおもしろい施設もあります。